

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2023年（令和5年）10月から12月

- 1 調査期間 2023年10月～12月（第3四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

製造業	10社
建設業	2社
飲食業	2社
観光業	3社
計	17社
- 4 調査項目
 - ① 3か月前と比べて
 - ② 前年同期と比べて
 - ③ 3か月後の見通し

※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

Volume 1 1

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

3か月前と比べての全体の業況 DI は-41.2 ポイントである。前回は+5.6 ポイントであったため 35.6 ポイントの下降である。すべての業種がマイナスを表している。

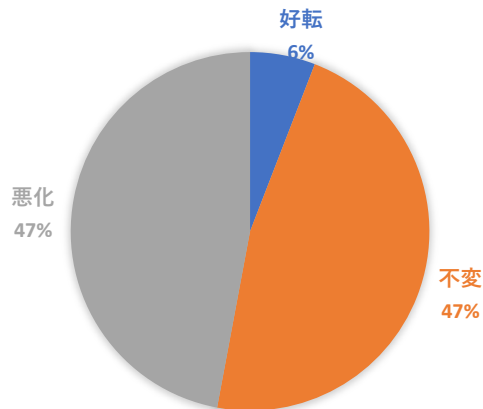
経営者の眼にもある通り、製造業の経営者は「先が見えなくて弱っている」・「停滞感を感じる」などのコメントもあり業界全体に停滞感があり回復基調になっていない。

前年同期比において、全体の業況 DI は-29.4 ポイントであり、前回は-11.1 ポイントであるため 18.3 ポイントの下降である。製造業のポイントは上昇しているが-70.0 から-40.0 ポイントにあがっているため悪化傾向は変わらない。

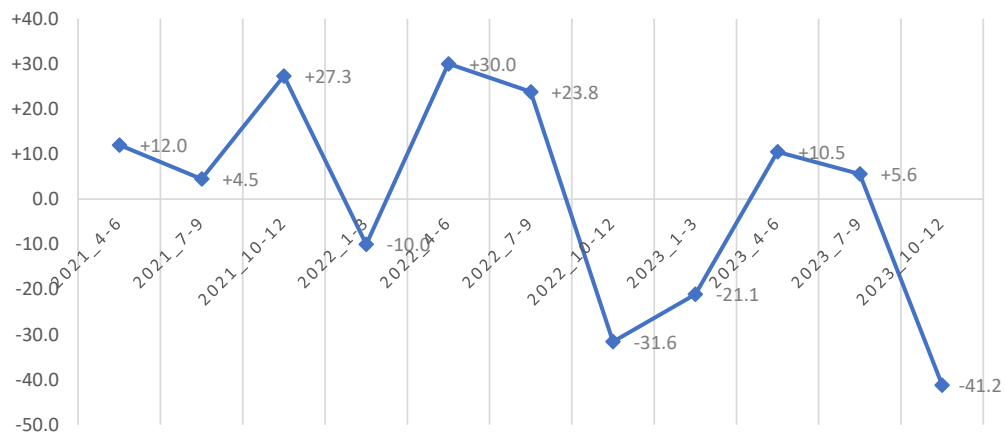
3か月後の見通しで、全体の業況 DI は+5.9 の上昇であり、第 4 四半期は多少明るい材料があるようである。

<調査項目① 3か月前と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	1	8	8	17		↘
	構成比	5.9%	47.1%	47.1%		-41.2	
製造業	実数	1	5	4	10		→
	構成比	10.0%	50.0%	40.0%		-30.0	
建設業	実数	0	1	1	2		↘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
小売業	実数						
	構成比						
飲食業	実数	0	1	1	2		↘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
観光業	実数	0	1	2	3		↘
	構成比	0.0%	33.3%	66.7%		-66.7	
サービス業	実数						
	構成比						

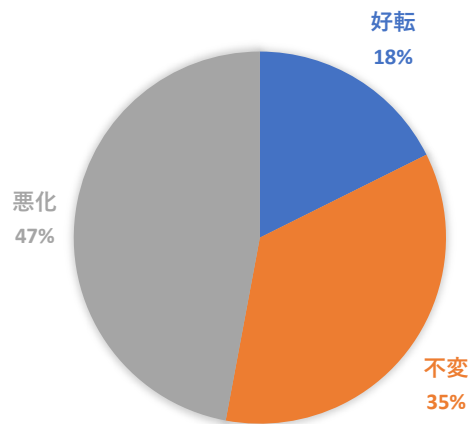


業況DI値推移（3か月前と比べて）

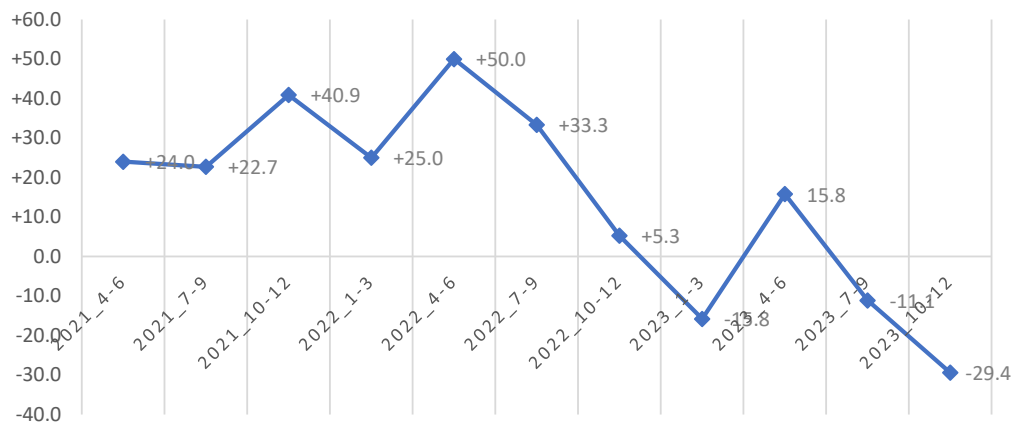


<調査項目② 前年同期と比べて>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	3	6	8	17		↘
	構成比	17.6%	35.3%	47.1%		-29.4	
製造業	実数	1	4	5	10		→
	構成比	10.0%	40.0%	50.0%		-40.0	
建設業	実数	0	1	1	2		↘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
小売業	実数						
	構成比						
飲食業	実数	1	0	1	2		↘
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
観光業	実数	1	1	1	3		↘
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	
サービス業	実数						
	構成比						

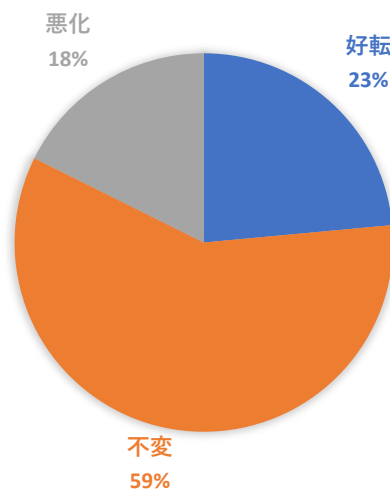


業況DI値推移（前年同期と比べて）

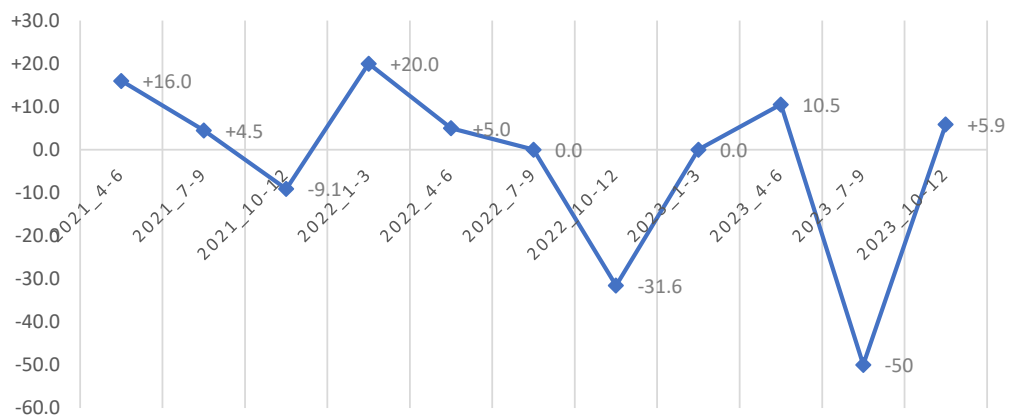


<調査項目③ 3か月後の見通し>

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	4	10	3	17		▲
	構成比	23.5%	58.8%	17.6%		+5.9	
製造業	実数	3	6	1	10		▲
	構成比	30.0%	60.0%	10.0%		+20.0	
建設業	実数	1	1	0	2		▲
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
小売業	実数						
	構成比						
飲食業	実数	0	2	0	2		▲
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
観光業	実数	0	1	2	3		▲
	構成比	0.0%	33.3%	66.7%		-66.7	
サービス業	実数						
	構成比						



業況DI値推移 (3か月後の見通し)



<経営者の眼(見方)>

事業主コメント	業種
2024年秋頃までは動きが鈍いと聞いており厳しい状況。	製造業
売上高はほぼ横ばいです。原材料・資材・光熱費などの高騰が続いていますが、顧客との値上げ交渉が功を奏し、利益率・利益額ともに持ち直しています。当面、売上一横ばい、利益→好転、の予想です。	製造業
コロナによる警戒状態が開け、利用者が戻ってきている。スキー場は温暖化の為に造雪に苦労している。能登半島沖地震は当社施設での避難者受け入れを検討している。	観光業
コロナ明け、夏は人出が多かったが、その反動か？人の動きが鈍い感じがします。	観光業
今現在では、電気配線ケーブルが国内問屋より出荷停止していて入手できない。ラピタス・TSMCの工場建設に国が関与しているとしか考えられない。能登半島沖震災の影響がどのように出てくるか不明。災害復旧に建築部材など復旧優先の国の方針もあるので、この時期が読めないことが何より不安要因。材料の高騰だけではなくて入手が出来ない状況に陥ったら受注は出来ても出荷は不可能である。弊社は新工場の完成間近になっているのでギリギリ予定通り引き渡しを受けられるが、危ういところでした。今後は多方面から困難な状況が生まれそうです。何をすることもコストは現状より下がる要因は考え難い。人手不足は更に加速する可能性あり。部品生産工場の我々は生産をロボット化する必要性が深まっている。	製造業
2023年第3四半期(7～9月)に一旦は回復した受注状況は10月以降に再び落ち込み、年末まで回復することなく年越しとなった。コロナの5類移行に伴う旅行・観光への消費シフトや物価高による買控えが主な要因だと思われるが、このまま建築需要が低迷し続けるとも考えづらく、落ち込みが一巡した後は一定程度の回復は見られると想定している。	建設業
先の見通しがつかめなくて困っている。	製造業
物価高による収益の悪化と、受注減による資金繰りが緊迫してきている。世界経済の低迷で今後の見通しも低調と思われる。今年後半にいくらかでも活性に向くことを期待する。	製造業
台湾総統選～米国大統領選挙、米中の動向が気になるどころ	製造業
EV 関係に加え、半導体関連の見積り、受注が増えてきている感じあり。設備関係では北陸近辺より引合い受注が続いている。北関東の高精度ギアのお客様から徐々ではあるが、増えてきているとの良い話もあり。今年は期待出来ると思われそうです。	製造業
昨年夏ごろから低下した受注が全く回復しない。一部大口の新規立ち上がり品もあるが、外部調達品のためあまり弊社自身の業績には寄与しない。今後も特に回復するとの情報もなく、むしろ年度末に向かって例年調整が入るため、あまり期待できない。 出入りの業者などからの噂だと、やはり地域的に苦戦を強いられているところが多いとか。	製造業
300円券が終了し、グリーンシーズンとスキーシーズン間の来客が減ったように感じた。スキーシーズンにも300円券が継続された年があり、その年はスキー客の来店が例年よりも多く感じたので、スキーシーズンにも町内の飲食店への来店につながるような券などがあると嬉しい。	飲食業